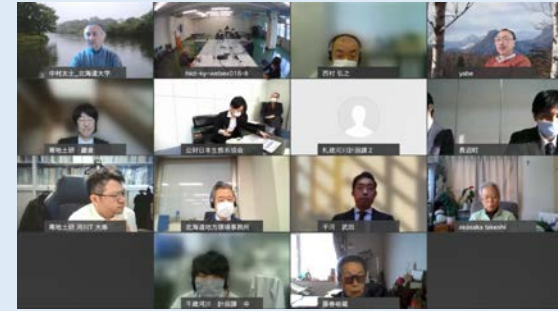


第5回 生息環境専門部会 開催結果概要



◆ 令和3年度のタンチョウ繁殖を総括し、令和4年度以降の展開について議論！

- 開催日時：令和4年2月7日(月) 13:30～15:30
- 開催場所：オンライン開催 (Webexを使用)
- 出席者：計21名 (うち委員10名)



主な検討内容 ●事務局からの報告 ○委員からの意見

(1) タンチョウの飛来・繁殖状況について

- 昨年度に引き続き、舞鶴遊水地内で1つがい繁殖し、ヒナが1羽生まれ育った。
- タンチョウが2年連続営巣し、繁殖に成功するという割合は少ない。優秀で成功した例である。
- 道央の繁殖地で生まれた個体が繁殖適齢を迎える。分散した個体群を成立させるため、千歳川遊水地群など、タンチョウの繁殖地としての確保が求められる。

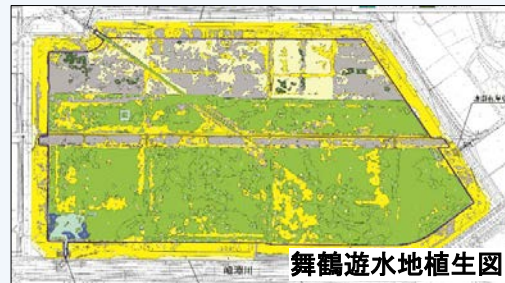


(2) タンチョウの繁殖等を踏まえた協議会の対応について

- 令和4年度に繁殖行動が確認された場合は、報道自粛を依頼せず、舞鶴遊水地の一部立ち入り制限を実施することも含めて報道発表を行うこととしたい。
- 報道発表する際は、タンチョウに近づかず優しく見守ることや、舞鶴遊水地内を立ち入りを制限していることを記事にしてもらうよう、発表すべき。

(3) 舞鶴遊水地の環境調査結果について

- 植物調査、鳥類調査、魚類調査、アライグマ調査等を実施した。
- 外来植物防除、アライグマ捕獲罠の設置を行った。



アライグマ捕獲用の
巣箱型わな

- 植生の変化を把握するために、数年に一度、遊水地内の複数地点で群落種組成とpH等水質指標を調査すると良い。
- 遊水地北側の採草地については、利活用の状況によっては、湿地化等、樹林化しないようにするべきではないか。
- 実際に採食した地点での採食資源量追跡調査をすると良い。
- アライグマの年周行動を踏まえた調査や捕獲をすると良い。

今後の展開について

- 生態系ネットワークの推進に際しては、舞鶴遊水地をモデルとして、地域との信頼関係の構築を図り議論していくことが有効。
- より広い範囲でタンチョウ受け入れの機運の醸成を行うためには、地域において鳥に関心のある方や各種団体、一般の方々からの声を集約してボトムアップしていく必要がある。
- 千歳川の6つの遊水地が、渡良瀬遊水地のようにラムサール条約湿地に登録できれば素晴らしいことだと思う。

総括



座長 中村 太士 教授

- タンチョウの繁殖行動が確認された場合は、地域住民のタンチョウへ対する愛着の醸成や地域で見守る雰囲気構築を図るため、報道自粛を依頼せず、舞鶴遊水地の一部立ち入り制限を実施する。
- 千歳川の他の遊水地や石狩川旧川など、舞鶴遊水地を超えた範囲で、タンチョウも含めた生物多様性の保全を治水とともにどのようにやっていくか、検討する必要がある。
- 本取組は、全国の生態系ネットワークの事例も確認し、地元とのつながりを作り、信頼関係の構築をしながら議論をしていくべき。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

第5回生息環境専門部会 議事概要

〔日 時〕：令和4年2月7日（月） 13:30～15:30

〔場 所〕：オンライン開催（Webex を使用）

〔出席者〕：計21名（うち委員10名）

（1）タンチョウの飛来・繁殖状況について

- タンチョウが2年連続して営巣し、繁殖に成功する確率は高くはない。舞鶴遊水地の事例は優秀で成功した例である。
- 道央地区で繁殖した子どもたちがそろそろ繁殖する時期に入る。千歳川遊水地群など、タンチョウの繁殖地としての確保が求められる。
- 道央圏の個体群も含めたタンチョウ生息地分散行動計画の見直しに期待する。

（2）タンチョウの繁殖状況を踏まえた協議会の対応について

- 次年度タンチョウの繁殖が確認された場合は、報道機関に報道自粛を依頼せず、遊水地の一部立ち入り制限を実施することも含めて報道発表する案が承認された。
- 地域住民やタンチョウに興味がある方々が温かく見守る雰囲気づくりが必要である。
- 報道発表する際は、タンチョウの状況を伝えるだけでなく、立ち入り規制や観察マナーもあわせて情報提供し、記事化してもらえるように依頼するべきである。

（3）舞鶴遊水地の環境調査結果について

- 下部湛水池は枯れ葉や枝が堆積し、ハンノキ等が入る湿原が形成されることも考えられる。
- 遊水地北側の採草地については、利活用の状況によっては、湿地化等、樹林化しないようにするべきではないか。
- アライグマの年周行動を踏まえてカメラの設置や捕獲をすると良い。

（4）令和4年度の環境調査予定等について

- 舞鶴遊水地内で2年連続育雛しているが、タンチョウの行動範囲が変化していることから、その理由について調査すると良い。
- 植生の質的な変化を把握するには、調査地点を設定し、数年に1回程度、群落種組成及び水質指標を調査すると良い。他事例でも参考になるデータが得られる。

今後の展開について

- 千歳川の他の遊水地および石狩川旧川など、舞鶴遊水地を超えた範囲で、タンチョウも含めた生物多様性の保全をどう治水と共にやっていくか、検討する必要がある。
- 本取組は、全国の生態系ネットワークの事例も確認し、地元とのつながりを作り、信頼関係の構築をしながら議論をしていくべき。
- より広い範囲でタンチョウ受け入れの機運の醸成を行うためには、地域住民や団体の意見を集約し、ボトムアップで自治体に届ける取組も必要である。
- 千歳川遊水地群が渡良瀬遊水地のように、ラムサール条約登録湿地に登録されれば素晴らしいことだと思う。

以 上